

杉山佳 日本画展 — 絵肌について

1月21日(水)～1月26日(月) ※最終日午後4時閉場
岡山天満屋5階 美術画廊
岡山市北区表町2-1-1 ☎086(231)7523(直通)



「絵のある部屋」15号F



「大きめの鳥と小さめの象」6号F



「うさぎが狙ってる」4号F

杉山佳の作品は多彩な魅力を宿している。潤沢に盛られた岩絵具の厚みがそれぞれのモチーフを象り、色彩を通じた絵画の楽しみとモチーフを通した意味の伝達を両立させている。丁寧に塗り上げられた画面は、荒々しく塗りたぐられた油絵具とは違った魅力を放ち、手仕事を感じさせる温もりと暖かさに包

まれるような印象を与える。もう一つの杉山作品の魅力は作品ごとのモチーフの選択と組み合わせだろう。彼は以前から「日本における見立ての文化」に関心を寄せている。見知った事物の思いがけない組み合わせに、日常を超えた出来事を想像的に獲得することの文化はあらゆる芸術を刺激してきた。

杉山の一見して不思議なところがなく、自然なかたちで描かれているモチーフたちにも目を凝らしてみれば、思わぬ発見がある。鹿や熊らしきものを描いた作品が無数にかけられた部屋に陳列する椅子。背後にある絵画とあまりにも収まりよく配置された光景は、逆さまに掛けられた一点の絵画とともに、ささやかな違和感をもたしてくる。この部屋を作った人は何をして、何を考えたのだろうか、と。無数にあり得る見立ては、人間の無数の有り様とも重なってくる。

そんな風に凝ってみることも、鮮やかさと柔らかさを湛えたイメージを愉快地鑑賞することも許されるのが杉山作品の良さであり、国外でもファンをつくる新たな日本画のかたちだろう。